

# Vol.4 「サピエンス全史」

## 読後感想 < 下巻編 >

### ■ 課題図書 の 概要

## サピエンス全史 (下)

文明の構造と人類の幸福

- 著者：ユヴァル・ノア・ハラリ
- 出版社：河出書房新社
- 定価：1900円+税

2021年3月、エルビス越前から「ティール組織」に続く第2弾として提示された課題図書は「サピエンス全史」。世界的なベストセラー本であり、2019年NHKでもこの本の著者のインタビュー番組が放映された。

# ひと言



学びのジョナサン

今回は「サピエンス全史」下巻の読後感想です。

下巻は、いよいよ中世から現代へ。  
その内容は、現代に近づくほど、暗い。  
そして、未来は…。

だから、少しでも明るい読後感想にするために  
挿絵は「カラー」にしました！

## MEMBER

今回の  
参加メンバー



M氏



S氏



エルビス越前



学びのジョナサン



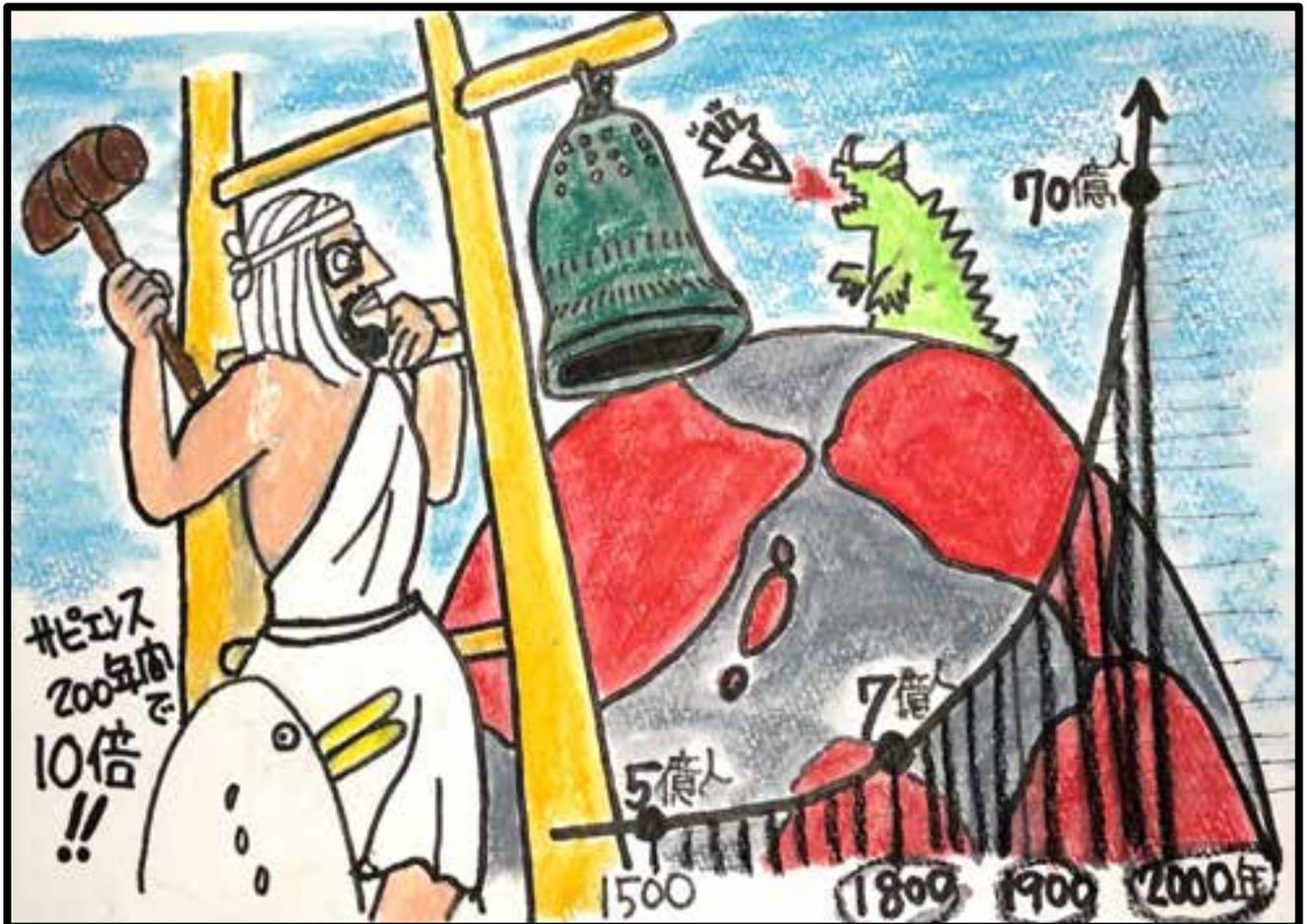
K氏

サピエンス全史（下）を読んで



この本は未来への警鐘だ。

人類はいまや、歴史を変えるだけでなく、  
終止符を打つことさえできる？！



少し前、「人口爆発」という言葉をいろいろな  
ところで聞いたことがあるが、「爆発」の意味  
とその原因がこの本でよくわかった。さらに、  
「爆発」のその先にあるものは何か、この本は  
予測している。そして「警鐘」鳴らしている。



サピエンス全史（下）を読んで



歴史が「変わる瞬間」がわかった。

コロンブスの新大陸発見が「変わる瞬間」だった。  
神話の世界が崩れ、新しい世界へ...



昔、哲学者ソクラテスは「無知の知」（知らないことを自覚すること）という考え方を大切にしていた。時代が進み、新大陸発見で「無知の知」を心底実感したのは「ヨーロッパの国々」。彼らは「発見」と「征服」で、世界を変えていった。



サピエンス全史（下）を読んで



## 日本人の「自立魂」が発見できた。

アジアの中で、ヨーロッパ諸国に征服されなかったのは日本だけだ。



なぜ、日本は征服されなかったのか？  
その理由は、司馬遼太郎さんの本に書かれている。  
日本は、江戸時代、「粋」を大切にする町人文化が発達していて、自立心が旺盛だった。こうした国は、侵略・征服しにくいらしい。だから、征服ではなく交易の相手国として位置づけたらしい。

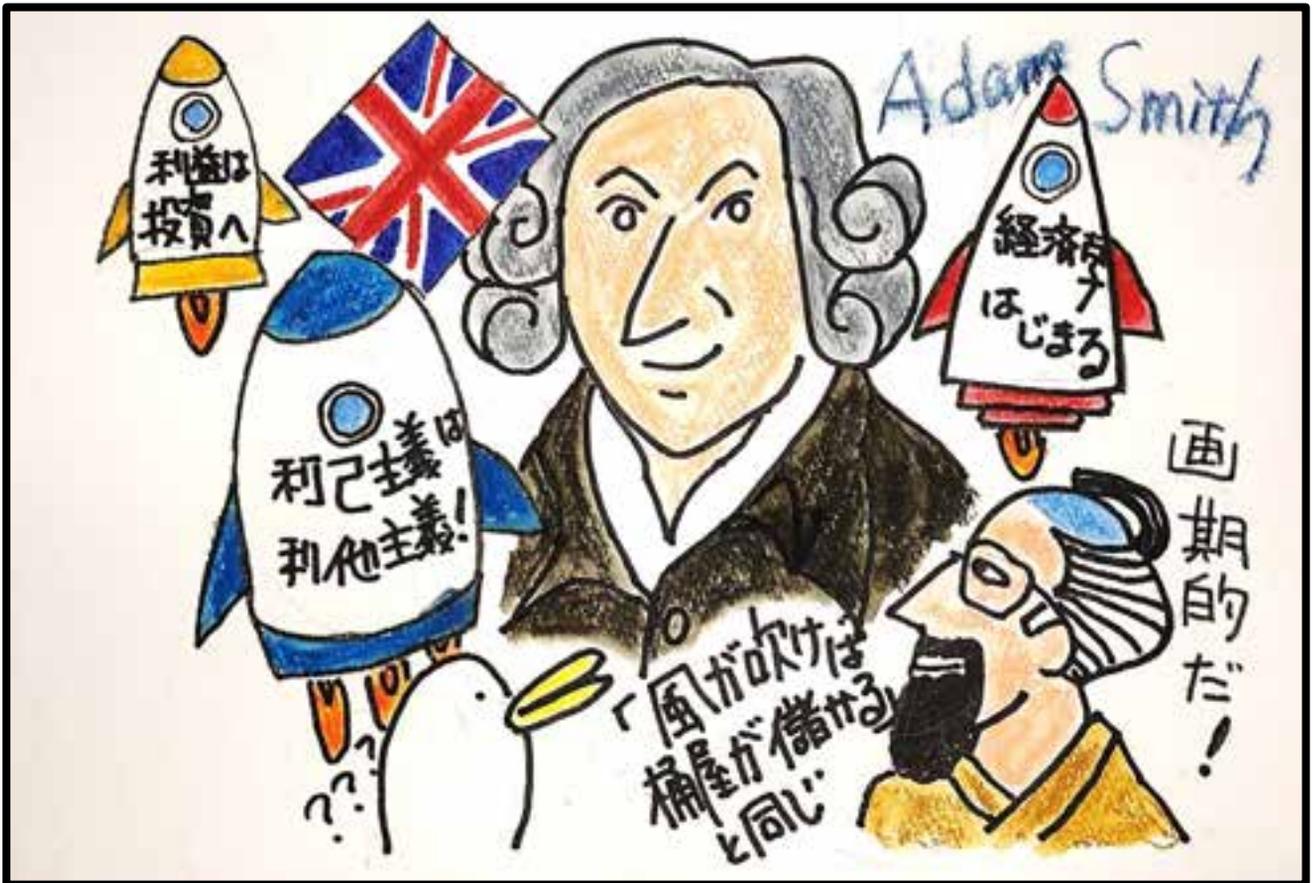


サピエンス全史（下）を読んで



## アダム・スミスの「国富論」の すごさが、わかった！

「利益は投資へ」という条件付きであっても、  
この本によって、「資本主義」が勢いづいた。



産業革命からの人類の「成長」「進歩」は凄まじい。この辺の事象解説は、世界史の教科書にたくさんでているので言及しない。大切にしたいことは「個人の利益追求は、まわりまわってみんなの利益につながっている」という今までにない画期的な考え方を提示したことだ。

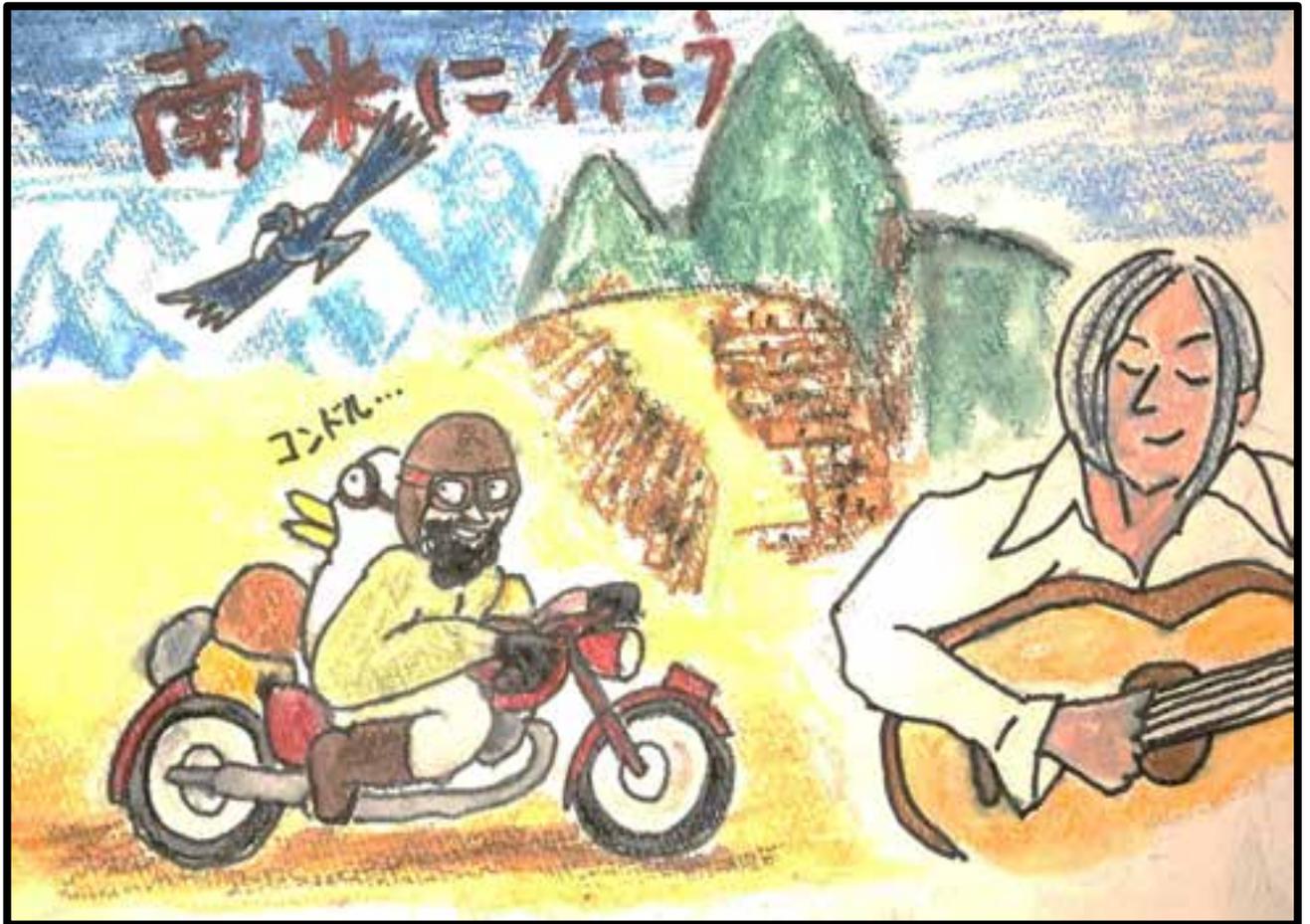


サピエンス全史（下）を読んで



なぜか「南米」を旅したいと思った。

南米には、インカ帝国の遺跡マチュピチュがある。  
よきヨーロッパの文化も受け継いでいる。



いいね、南米。  
科学革命以前の文明・文化が残っている。  
なにより、おらかで陽気なサピエンスがいる。  
ラテンな気分...これからの未来を考える上でも、  
いいと思う。





## 第4回NATTARA読書会 終わりにあたって

「サピエンス全史」(下)の  
誌上読書会はいかがでしたか。

メンバーからは、  
「上巻の方が目からうろこ的な感動がたくさんあった」  
「下巻は、世界史を再度学んでいるような感じだった」  
など、少々下巻に関する評価が低かったようです。

ただ、この本の副題  
「文明の構造と人類の幸福」にあるように  
頭の中で羅列されていた歴史的事実を  
立体的(構造的)に整理できたという点では  
貴重な書だったことは、間違いありません。

個人的な思いですが  
「未来」への意識の持ち方(大切にしたいもの)が  
しっかりつかめたようにも思えました。

ここまで読んでいただき、本当にありがとうございます。

次回は、  
『実行の4つの規律』(クリス・マチェズニー著)です。



## 読書会メンバーを募集します

Info@nattara.netまでご連絡ください。

メンバーご希望の方は、キャラクターとして登場してもらいます。そして、  
感じたことをメールで送っていただければ、事務局でこの「NATTARA読書会」  
報告として編集いたします。ご応募、お待ちしております。